



CONTENTS

- | | |
|-------------------------------|-------|
| 巻頭言：「座右の書を見つけて下さい」 1 | 杉見 吉晴 |
| 私の選んだこの一冊 2 | |
| 「ノーベル賞ゲーム」 丸山工作編 | 岩崎 崇 |
| 「フジツボ：魅惑の足まねき」 倉谷うらら著 | 清水 克彦 |
| 「レポートの書き方講習会」に参画して 4 | 桐山 聰 |
| 学生協働交流シンポジウム参加報告 6 | 山田 裕果 |
| 鳥取大学鳥取市役所同窓会からの寄付金による購入図書紹介 8 | |
| トピックス 9 | |
| 鳥取地区図書館実務者連絡会議 | |
| 中国四国九州沖縄地区フレッシュパーソンセミナー | |
| 図書館セミナー（医学図書館） | |
| 全国大学ビブリオバトル鳥取地区決戦 | |
| 附属図書館利用状況（最近5か年） 11 | |



「座右の書を見つけて下さい」

梶見 吉晴

図書館と聞けば、昔々、夏休みの読書感想文、大の苦手で、感想文が書きやすい図書（そんな図書はないにも関わらず）を探すための場として利用し、原稿用紙の指定枚数を何とか苦勞しながら埋めたことを思い出します。その後、夏休みの読書感想文の時代が終わってからは、図書館から遠ざかりました。

大学に進学してからは、「図書館＝静寂環境」の場でもあったことから、学部学生の時代、自習やレポート作成の場として頻繁に利用した記憶があります。その後、大学院へ進み、修士課程では、流体力学に関する研究において、参考文献での理論式の展開をフォローしている過程でわからないとき、図書館にて流体力学や数学の図書を疑問解明に活用しておりました。その参考図書を探し出す際、困っている課題のみならず、自分の修士論文を完成させるまでに理論展開上で出てくると思える内容についても解説しているような書籍を見つけようと思い（本音は、本探しを一度で済ませよう、さらには購入していつでも参考できるように手元においておこうと思い）、本をパラパラと全体をよく見ていました。そんな参考図書の探し方をしてきた折、指導教授から「参考図書とは、今困っている問題部分についてのみ理解しやすく解説している本であればよく、それ以外の項目内容については重要ではない。」とご助言を賜りました。それ以来、目的を絞ったスポット的な参考図書の検索方法へ変わっていききました。

研究者への道を歩み出し、学位論文における複素関数論を利用した理論モデルの構築に行き詰まっていたとき、東京大学名誉教授今井功著「流体力学(前編)」(裳華房)と、その関連と図書として、池田芳郎著「等角寫像とその方法」(生産技術センター)と出会いました。物体周りの渦流れに関するポテンシャル理論を今井先生の「流体力学」より、またその物体を平面や取り扱いやすい形状への変換方法を池田先生の「等角寫像とその方法」より学び、大型計算機を用いて研究対象の物体周りの流線を作図できたときの感動は今も鮮明に残っています。学位取得後もポテンシャル理論に基づく研究をしばらく続けていましたとき、1990年7月31日に鳥取大学で今井先生の記念講演が開催される案内が届きました。当日、私は使い古して表紙をビニールテープで補強していた今井先生の「流体力学」の本をもって記念講演会場の最前列の席で拝聴し、講演終了後、その本に先生直筆で私の氏名、ご署名と日付を頂きました。その後も、この本を自分の研究や学生の指導に多に利用してきました。今は、私の宝物として記念講演会で頂いた今井先生の名刺を貼り付けて大切に保存しています。学生の皆さんも、一生付き合っていける図書を見つけて下さい。



(まつみ よしはる :)

理事(研究担当、環境担当)・副学長)

丸山工作（編）『ノーベル賞ゲーム』（岩波書店）

岩崎 崇

「一度、挫折を経験しなさい。そして、そこから再び立ち上がるプロセスも経験しなさい。かつてのアンドリュウ・シャリー博士のように。」これは、私が大学院に進学した最初の年に、当時の指導教官の先生からいただいた言葉です。

ここで出てくる「シャリー博士」とは、「脳のペプチドホルモン産生に関する発見」によって、ロジェ・ギルマン博士とともに1977年にノーベル生理学・医学賞を受賞したその人です。シャリー博士は、米国にあるギルマン博士の研究室で1950年代から、ヒツジ250万頭（凄まじい数字です）の脳からペプチドホルモンを見つける研究を始めます。その研究過程は、非常に泥臭く、大変地道な研究であったと聞きます。そのような気長な苦労も遂に報われるかと思われた1962年に、シャリー博士は共同研究者であるギルマン博士と仲違いをしてしまいます。そして、これまで心血を注いで研究してきた研究成果も、ギルマン博士の研究室にすべて置いて出て行くことになります。

常人でしたら、ここですべて諦めてしまうところですが、シャリー博士は新たにブタ16万5000頭の脳を集めて、ペプチドホルモンの探索研究を再開します。目的はただ一つ、以前の共同研究者であったギルマン博士よりも少しでも早く、脳からペプチドホルモンを見つけることだけです。一方のギルマン博士も、これまでのアドバンテージを生かして、なんとかシャリー博士よりも先に発見を目指します。そして、両者の常軌を逸した執念と競争の結果、1969年に

シャリー博士とギルマン博士は別々に、ブタとヒツジの脳から全く同じペプチドホルモンを発見するに至ります。両者の論文が発表されたのはわずか6日差（学術的には同着ということになります）でしたので、いかにシャリー博士の追い上げが凄まじかったかがよく分かります。この後も、両者は熾烈ないがみ合いと競争を繰り返しながら、数々の研究成果を挙げていき、最終的には1977年にノーベル生理学・医学賞を共同受賞するに至ります。

これらの逸話が、より熱を帯び臨場感を伴って紹介されているのが、今回私が紹介させていただく『ノーベル賞ゲーム』です。私は、指導教官から前述の言葉をいただいた際、シャリー博士について知るために、この『ノーベル賞ゲーム』を読み、いかに研究の世界が熾烈であるかを知りました。しかしその一方で、シャリー博士の研究者としての執念に対して憧れを抱き、「挫折を知る！」と筆で書いた紙をデスクに貼って、日々研究に励んでいたことを思い出します。研究の世界を垣間見たい人や、これから研究の世界に足を踏み入れようとする人へ、是非お勧めしたい一冊です。

（いわさき たかし :
農学部准教授 附属図書館委員）

○図書館所蔵

中央図書館 開架

請求記号：404：Nob

私の選んだこの一冊

倉谷うらら(著)『フジツボ：魅惑の足まねき』(岩波科学ライブラリー)

清水 克彦

フジツボは、エビやカニと同じ甲殻類であるが、硬い殻に包まれ、海岸の岩礁や構造物に固着することから、よく貝類に間違われる。実社会においては、船舶や漁網ほか、海洋構造物に付着しその機能を低下させる汚損生物の代表格と見なされる、気の毒な生き物である。ちなみに、私は、4年間着生機構を解明するプロジェクトに参加し、フジツボの研究に携わった。当時、効果は高いが有害なスズを含む防汚塗料に代わる環境に優しい塗料が求められており、そのためにはまずどのように付着するのかを知る必要があったのである。

この本では、研究をするうちにフジツボの虜となった著者が、愛情を込めて書き記しており、フジツボは魅力あふれる生き物として描かれている。研究の歴史や現在、食や文学などフジツボにちなんだ文化など、フジツボに関する様々な情報が盛り込まれている。最も有名なフジツボの研究者は「種の起原」を著して進化論を唱えたチャールズ・ダーウィンであるが、彼はフジツボに関する4巻のモノグラフを記すとともに、多くの種を同定しその名を残している。本書では、ダーウィンがいかにフジツボを愛していたかを資料共に記述している。様々

な種の写真が掲載されており、図鑑として利用することも可能である。装丁や内装は、科学書というより、女性向けの旅行のガイドブックを思わせる色使いやレイアウトとなっている。巻末には、付録としてペーパークラフトまで添えられている。

岩波科学ライブラリーのシリーズ<生きもの>では、ある特定の種やグループの驚くべき特徴や知られざる生態が、専門家によって科学的知見をもとにコンパクトにわかりやすく紹介されている。あまり知られていない生物でもそれぞれに独特の魅力があることを知るきっかけとなるような、このような書籍がますます出版されることを願う。その一方で、私は海綿動物という、研究者人口の大変少ない生き物を扱っているが、まだまだ研究対象への愛情が足りないかと反省させられる著作である。

(しみず かつひこ :地域価値創造研究
教育機構 准教授 前附属図書館委員)

○図書館所蔵

中央図書館 開架 請求記号：485.3 : Fuj
医学図書館 請求記号：485.3 : Kur



「レポートの書き方講習会」に参画して

桐山 聡

本学中央図書館が平成 25 年度から開催している「レポートの書き方講習会」に、平成 29 年度から参画し、講習会 Step2 以降の企画と講師を担当している。本稿では、特に Step2 において設定した学習者支援上の課題と対策について述べる。

「レポートの書き方講習会」は、学術文章の作成支援の一形態である。学術文章の作成支援の組織的な取り組みについては、例えば、早稲田大学ライティング・センターが、「自立した書き手を育てる」ことを理念の一つに掲げ、専門的な訓練を受けた大学院生（チューター）と書き手とのコミュニケーションを通じて、理念の実現を図っている^[1]。ライティング・センターは、アメリカ発祥であり、スタンフォード大学には全米で最大規模のライティング・センターが設置されている^[2]。アメリカにおいて、学術文章を書く能力の育成がいかに重視されているのかを如実に示す例である。

ところで、学術文章の作成支援が重要であるという認識があっても、早稲田大学の取り組みを手本とすることは資金等の点から容易ではない。従って、現実的には開設が比較的容易な講習会や授業の中に、書き手の「自立」を支援する手立てを組み込むことが課題となる。

「自立」のためには、まず書き手が自分自身の書いた文章の良し悪しを判断するための評価基準を持つことが必要となる。評価基準は、レポート作成の指南書の中で挙げられている要点や注意点が該当すると見なしてもよい。しかし、初学者が指南書の中身を全て習得するまでには時間を要するため、学ぶべきことの優先順位を示すことが支援の第一歩である。

そこで、「レポートの書き方講習会 Step2」では、「文章の構造化」を主たるテーマとした。Step1 の受講者向けアンケートの回答に「文章構成をもっと学びたい」という主旨の記述が少なからず存在したため、Step2 で設定したテーマは初学者のニーズからかけ離れたものではない。

Step2 の冒頭では、レポートを「分かりやすく書く」のは、「読み手から望ましい反応を引き出す」ためであることを示した。ところで、「分かりやすく書く」と「読みやすく書く」ことは初学者において混同されがちである。「読みやすく書く」だけであれば、平易な語彙を選び、構文を単純に、一文一義を徹底しさえすればよい。初学者のレポートが読書感想文のようになるのは、「読みやすく書く」段階から脱していないからである。

学術文章は、図 1 に示すように、横書きであれば、概ね問題提起に始まり、仮説や結果等が、上から下に順番に配置された構造となっている。この構造あるいは「型」は、学術分野が異なっても、レポートを課す大学教員の中では暗黙のうちに共有されている。従って、レポートの書き手が、読み手である教員が持っている学術文章の「型」を意識し、同じ「型」に当てはめてレポートを作成すれば、「分かりやすい」レポートとなる。このことから、文章が「型」にはまっているかどうかは、先述した書き手が持

つべき評価基準の一つであることがわかる。「型」の共有は、例えば文章の論理的整合性の検証を容易にするため、読み手からの高評価やコメント等の反応を引き出すことに繋がる。読み手から引き出された反応は、書き手が次のレポート作成を改善するヒント等、書き手の成長に寄与する。

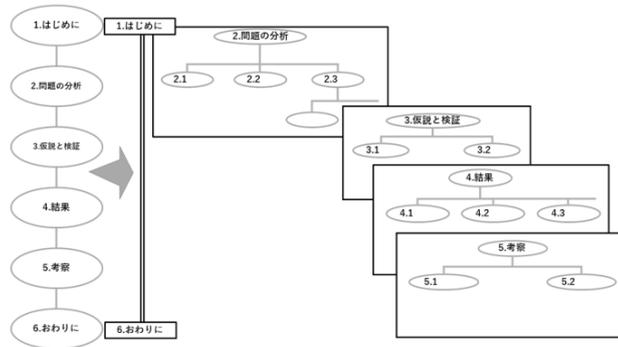


図 1 文章構造の例

「文章の構造化」の必要性を受講者に理解させることはできても、それが文章作成の技能として即座に身につくわけではない。そもそも、読んでいる文章が構造化されているのかどうかを判断できないレベルであれば、文章の構造化は無理である。従って、図 2、図 3 に示すように、文章の構造化の習得手順も段階的に設定して提示することが必要となる。

図 2 では、「要約」を文書の構造を把握する訓練と位置づけており、Step2 において 15 分間の「要約演習」として実施している。具体的には、新聞の社説中のフレーズ 10 箇所を傍線を引いた教材を提示し (図 3(a))、それらのフレーズを重要な順番に上から下に並べ替えさせ (図 3(b))、さらに各フレーズ間を接続詞や助詞等で結びつけて文章の体裁を整えさせた。

要約演習はテストではないため受講者の達成度を定量的に評価してはいないが、Step2 の受講者向けアンケートの回答を読む限り、要約のやり方について理解は得られたと判断した。

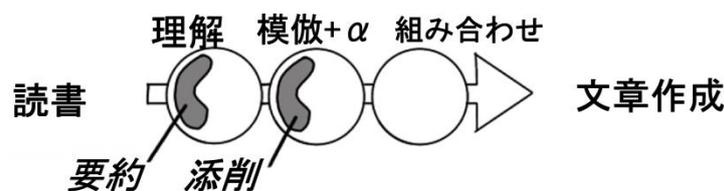


図 2 文章の構造化のための段階的な習得手順

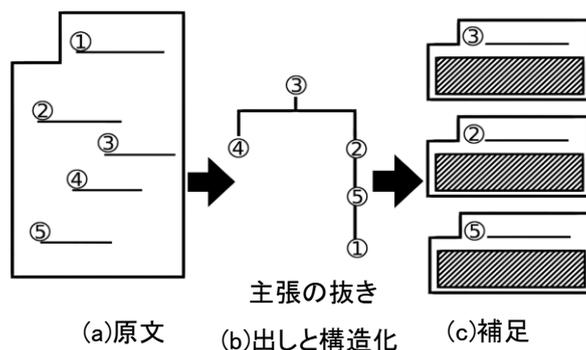


図3 「要約演習」実施方法の説明

平成30年度以降も引き続き「レポートの書き方講習会」に参加する予定であるが、今年公開された中高生の読解力に関する調査結果¹⁾は、教科書に記載された文章を表層的にしか理解していない生徒の割合が高いことを示唆しているため、Step2以降の講習会シリーズのそれぞれにおいて設定したテーマも年度ごとに見直す必要があると考えられる。

参考文献

- [1] 佐渡島 紗織, 太田 裕子. 文章チュータリングの理念と実践 : 早稲田大学ライティング・センターでの取り組み. ひつじ書房. 2013.
- [2] 佐渡島 紗織. 自立した書き手を育てる : 対話による書き直し. 国語科教育. 2009. Vol. 66. p. 11-18
- [3] 新井紀子, 尾崎幸謙. デジタイゼーション時代に求められる人材育成. NIRA オピニオンペーパー. 2017. Vol. No. 31.

(きりやま さとし : 教育センター准教授)

2017.5
平成29年度 附属図書館講習会

レポートの書き方講習会

よりよいレポート作成を目指す！

Step2

講習の概要

Step2は教育センター 桐山 聡 先生が講習会を担当します！
Step1のアンケートで「伸ばしたい点」として皆さんからの意見が多かった文章の構成や固い立て方等
レポートを書くときの考え方を具体的に解説
さらに！文章が書ける人ほど、陥りがちな
そんなレポートでの失敗も、実際の
レポートを例に、確認していきます。
レポートについてしっかり学びましょう！

講師 教育センター 桐山 聡 先生
日時・場所等 日時：5月22日(月)、25日(木)、26日(金)
各16:30～(1時間程度)
場所：図書館3階 多目的ルーム1
定員：各回40名(予約制・先着順)

※状況に余裕がある場合、当日参加も可能です。

ココ！3階上がって右手

【お申し込み・お問い合わせ先】
鳥取大学別冊図書館 学術情報課
Tel:0857-31-5673(内:7062)
Mail:ac-gakujyu@adm.tottori-u.ac.jp



桐山先生による講習会の様子

学生協働シンポジウム参加報告

山田 裕果

鳥取大学では昨年より参加している大学図書館学生協働交流シンポジウムへ、学生図書館ワーキンググループ主査の中田あかねさん（農学部3年生）と共に今年も参加しました。第7回となる今年は「図書館がきりひらく^{ミライ}航路—悩み解決・つながり強化—」をテーマに、愛媛大学城北キャンパスにて9月5日から6日の2日間開催されました。1日目は学生・職員が「悩み」カテゴリに分かれワークセッションを、2日目は各学生協働団体のポスターセッションを主に行いました。

印象的だったのは、やはり他大学での学生協働の様子を知ることができるポスターセッションです。各学生協働団体が3つのテーマ「テーマ1：教えて！みんなの図書館と団体『わたしたちは〇〇です！』」、「テーマ2：理想の図書館に向けた宣言『理想の図書館のために〇〇〇します！』」、「テーマ3：振り返ろう、シンポジウム。『楽しかった！』その先へ」からテーマを選び、ポスターを作成しました。（図1）



中田さんは、昨年シンポジウムに参加した際に影響を受けた企画を鳥取大学に持ち帰り、この1年、取り組んできたこともあり、テーマ3を選び、「本の福袋」と「キャラクターの制作」の報告とこれからの活動について発表しました。寄せられた質問では、本の福袋やクイズラリーに関するものが多くありました。特に福袋は、準備段階から貸出の仕方まで、多数質問を受けました。どの方も、自団体の取り組みに活かそうという気持ちが強く、様々な意見を出してくださいました。他団体のセッションを見てまわった際も説明担当の方は自団体の取り組みを熱心にプレゼンテーションしており、小さな質問まで丁寧に対応をしてくださいました。双方が意欲的で、とても有意義な意見交換の時間となりました。

本シンポジウムを通して得たことを、鳥取大学附属図書館の中で活かしていくことはもちろんですが、他団体がシンポジウムで吸収したことを今後どのように消化し活かしていくのかも、とても楽しみです。なお、本シンポジウムの実施記録は、現在インターネット上で公開されています。ポスターセッションも、実際にシンポジウムで掲示されたものがまとめられていますので、ぜひご覧ください。

鳥取大学附属中央図書館
学生図書館ワーキンググループ

- 「本の福袋」の企画・実行
クリスマス時期にツリーの下に、テーマごとに数冊の本をまとめ、中身が見えないようにラッピングしてミニトートバッグに入れた「本の福袋」を用意し、貸し出しました。
- キャラクターの制作
シンポジウムで他大学の図書館協働に様々なキャラクターが存在することを知り、学生図書館ワーキンググループ公式キャラクターを制作しました！

• これからの活動について
昨年度から開催し始めたクイズラリーの継続、展示、選書、ピブリオバトル、今年度制作した公式キャラクターの活用（ポスターなどの宣伝物、景品の小物など）。クイズラリーやピブリオバトルの参加者の増加、図書館の利用者の増加を目指す。また、新しい取り組みにも積極的に取り組む。

第7回大学図書館学生協働交流シンポジウム「図書館がきり
ミライ
りひらく航路—悩み解決・つながり強化—」

<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/sympo2017/index.html>

（やまだ ゆか： 図書館情報課司書）

図1：鳥取大学ポスター

鳥取大学鳥取市役所同窓会からの寄付金による購入図書紹介

平成 23 年度より鳥取大学鳥取市役所同窓会から資料購入のためのご寄附をいただいております。平成 27 年度以降に購入しました図書を紹介します。配架場所は 1 階エレベータ前書架です。皆様ご利用ください。

書名等	請求記号	
アメリカン・コミュニティ：国家と個人が交差する場所 / 渡辺靖著	081:Shi:A	新潮文庫
「便利」は人を不幸にする / 佐倉統著	081:Shi:B	新潮文庫
ウェブ文明論 / 池田純一著	081:Shi:U	新潮文庫
金融の世界史：バブルと戦争と株式市場 / 板谷敏彦著	081:Shi:K	新潮文庫
私たちはなぜ税金を納めるのか：租税の経済思想史 / 諸富徹著	081:Shi:W	新潮文庫
主戦か講和か：帝国陸軍の秘密終戦工作 / 山本智之著	081:Shi:S	新潮文庫
炭素文明論：「元素の王者」が歴史を動かす / 佐藤健太郎著	081:Shi:T	新潮文庫
江戸の色道：古川柳から覗く男色の世界 / 渡辺信一郎著	081:Shi:E	新潮文庫
天皇と葬儀：日本人の死生観 / 井上亮著	081:Shi:T	新潮文庫
明治神宮：「伝統」を創った大プロジェクト / 今泉宜子著	081:Shi:M	新潮文庫
カネと文学：日本近代文学の経済史 / 山本芳明著	081:Shi:K	新潮文庫
危機の女王エリザベス II 世 / 黒岩徹著	081:Shi:K	新潮文庫
座談の思想 / 鶴見太郎著	081:Shi:Z	新潮文庫
新・幸福論：「近現代」の次に来るもの / 内山節著	081:Shi:S	新潮文庫
古代日本外交史：東部ユーラシアの視点から読み直す / 廣瀬憲雄著	081:Kod:569	講談社選書メチエ
満蒙：日露中の「最前線」 / 麻田雅文著	081:Kod:580	講談社選書メチエ
緑の党：運動・思想・政党の歴史 / 小野一著	081:Kod:583	講談社選書メチエ
本居宣長『古事記伝』を読む / 神野志隆光著	081:Kod:525	講談社選書メチエ
冷えと肩こり：身体感覚の考古学 / 白杉悦雄著	081:Kod:581	講談社選書メチエ
感情の政治学 / 吉田徹著	081:Kod:579	講談社選書メチエ
源実朝：「東国の王権」を夢見た将軍 / 坂井孝一著	081:Kod:578	講談社選書メチエ
教会領長崎：イエズス会と日本 / 安野眞幸著	081:Kod:576	講談社選書メチエ
魔女狩り：西欧の三つの近代化 / 黒川正剛著	081:Kod:571	講談社選書メチエ
人格系と発達系：「対話」の深層心理学 / 老松克博著	081:Kod:572	講談社選書メチエ
日本の戦争と宗教 1899-1945 / 小川原正道著	081:Kod:566	講談社選書メチエ
ベルクソン=時間と空間の哲学 / 中村昇著	081:Kod:567	講談社選書メチエ
クラシック魔の遊戯あるいは標題音楽の現象学 / 許光俊著	081:Kod:568	講談社選書メチエ
ティムール帝国 / 川口琢司著	081:Kod:570	講談社選書メチエ
見えない世界の物語：超越性とファンタジー / 大澤千恵子著	081:Kod:573	講談社選書メチエ
潜伏キリシタン：江戸時代の禁教政策と民衆 / 大橋幸泰著	081:Kod:574	講談社選書メチエ
神から可能世界へ / 八木沢敬著	081:Kod:575	講談社選書メチエ

トピックス

鳥取地区図書館実務者連絡会議を開催

鳥取地区の図書館4館（鳥取県立図書館、鳥取市立図書館、公立鳥取環境大学、鳥取大学）による「鳥取地区図書館実務者連絡会議」を年2回開催しています。今年度1回目は鳥取大学が当番館として8月25日（金）に開催しました。

会議では「平成29年度の共同企画事業」を協議し各館の報告や情報交換を行いました。また、今まで以上に大学図書館、公共図書館の図書館職員の強固な連携体制を築くため、「鳥取地区図書館職員等勉強会」を6月9日、9月1日に開催し、意見交換会や松山大学片山俊治准教授を講師に招いて「図書館員の人材育成」をテーマに勉強会を実施しました。

今後も館種を超えた連携によるこのような取り組みを実施し、図書館サービス向上を図っていきます。



第2回勉強会の様子

中国四国九州沖縄地区フレッシュパーソンセミナーを鳥取大学で開催

9月7日から8日にかけて、第7回中国・四国・九州・沖縄地区 大学図書館職員フレッシュパーソンセミナーを鳥取大学で開催しました。このセミナーは、中国四国地区大学図書館協議会および国立大学図書館協会中国四国地区協会・九州地区協会が主催する研修会で、大学図書館に配置されてから4年以内の職員を対象としており、鳥取大学での開催は今回が初めて。7回目となる今回は、各地区から国公私を問わず17名の若手職員が受講しました。



基調講演の様子

東京大学附属図書館高橋努事務部長による基調講演の後、学修支援や学生協働、目録と電子リ



グループワークの成果を発表する受講生

ソース、電子ジャーナル、機関リポジトリなどの講義が行われ、メモを取りながら熱心に聞き入る受講生の姿が見られました。また、「大学図書館の利用促進のための企画提案」をテーマにグループワークを実施し、発表された企画案には、夜の図書館（ナイト・ライブラリー）事業や、ラーニ

ングコモンズの活用方法など、既存の取り組みに囚われない多様な発想が見られ、講師からの「ぜひ実施してもらいたい」という言葉で締められました。受講生からは、「今後、求められる大学図書館像がよくわかった」「他大学の同年代の職員と交流を深めることができ勉強になった」などの感想が聞かれました。

図書館セミナーを開催（医学図書館）



今年度第3回セミナーの様子

医学図書館では、今年度も中根裕信先生（解剖学）を講師に「図書館セミナー」を3回（6月28日、7月31日、8月29日）開催しました。このセミナーは学生が人体への理解を深め、幅広い教養と人間力を身に着けることを目的として、平成21年度から毎年開催しています。今年度は入口横の「ブラウジングコーナー」において実施し、より多くの学生が参加できる環境での開催にしました。

「外科のルーツを探る」「麻酔」「解剖図-芸術家との関係」をテーマに各回とも多数の学生が参加し、「解剖図を見るときや解剖を行う際に興味を持って取り組みそう」「表現力をつけることが大切というのはレポートの表現や講義の理解イメージにつながると思う」等感想をいただき有意義なセミナーとなりました。

全国大学ビブリオバトル鳥取地区決戦を初開催

11月11日に中央図書館において「全国大学ビブリオバトル鳥取地区決戦」を開催しました。昨年までは山陰地区決戦として島根県での開催に参加していましたが、今年は初めて鳥取県で開催したものです。県内の3大学で実施された予選会を勝ち抜いた学生3名のバトラーによって紹介された本はいずれも読みたくなるような内容でした。

チャンプ本には本学農学部の小倉裕平さんが紹介した、ピエール・バイヤール著「読んでいない本について堂々と語る方法」が選ばれ、12月17日に東京で開催される全国大会に進むことになりました。鳥取大学学生が全国大会に出場するのも初めてです。



バトラーによる発表の様子



チャンプ本に輝いた小倉裕平さん

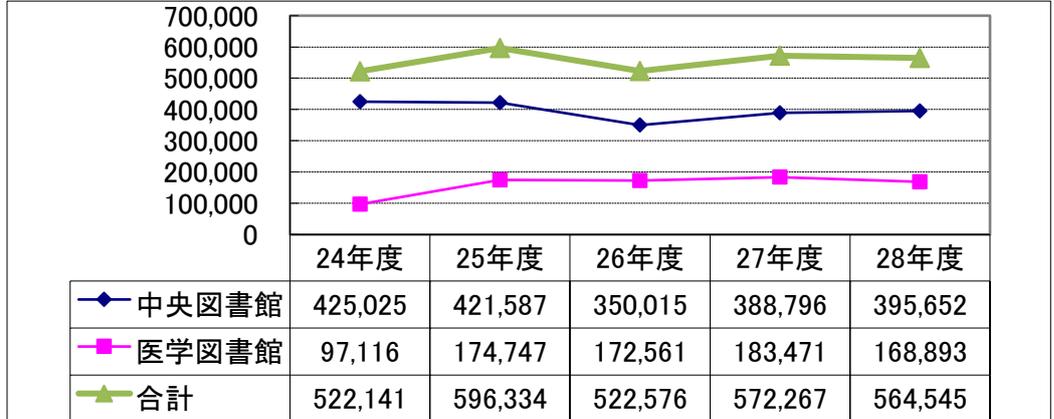
附属図書館利用状況（最近5カ年）

年度別開館日

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
中央図書館	333日	340日	333日	343日	338日
医学図書館	*295日	327日*	329日	333日	318日

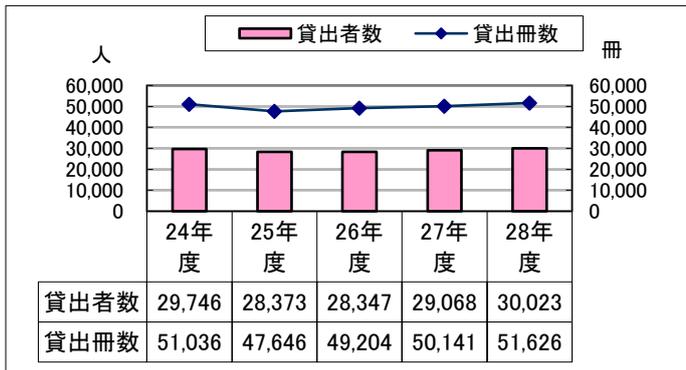
*耐震改修の為、仮設図書館で運用

年度別入館者

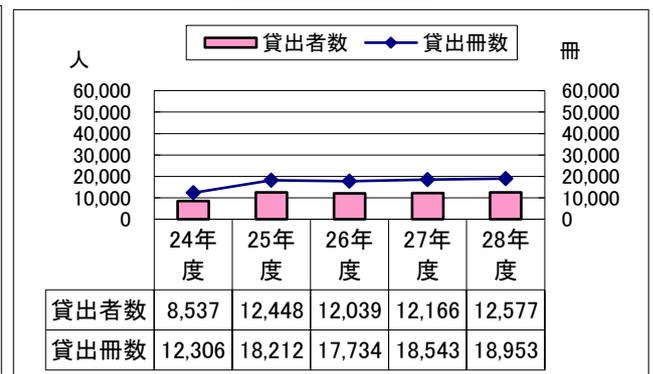


年度別貸出者数・冊数

中央図書館

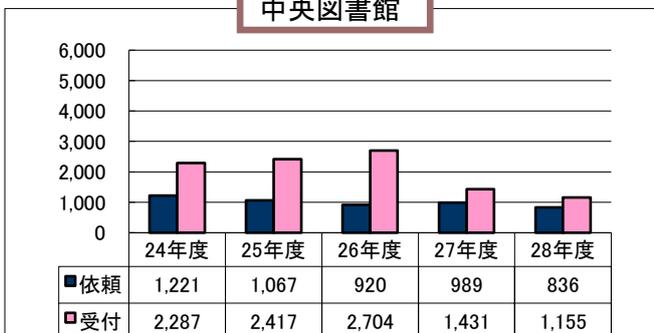


医学図書館

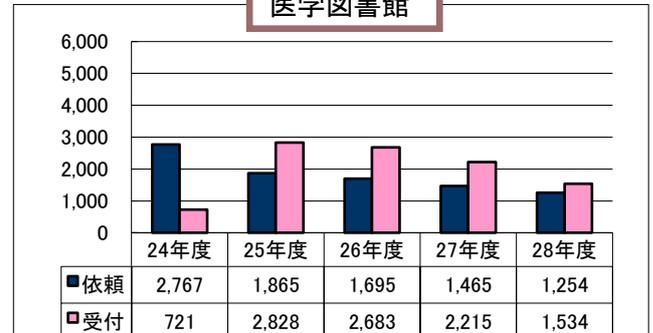


文献複写学外依頼・受付件数

中央図書館



医学図書館



鳥取大学附属図書館報 第130号 (2017年11月)

【編集・発行】 鳥取大学附属図書館

〒680-8554 鳥取市湖山町南4丁目101番地 [TEL] (0857)31-6728 [FAX] (0857)28-6346

[E-Mail] tosyokan-p@adm.tottori-u.ac.jp [ホームページ] <http://www.lib.tottori-u.ac.jp/>

Copyright (C) 鳥取大学附属図書館 【本館報について一切の無断転載を禁止します】

